

綾部市住民へのアンケート結果に基づき 乾式貯蔵の住民説明会や避難計画に関する要望

アンケート結果で8割が説明会は必要と回答

→「乾式貯蔵のことを知ってもらうことは重要だが、説明会の予定はない」

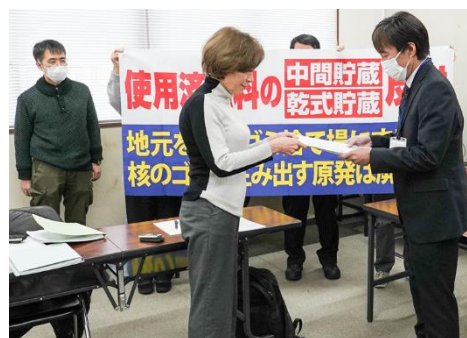
能登半島地震を教訓に避難計画の見直し

→「避難訓練を行って、実効性を高める」

安定ヨウ素剤の事前配布

→「市の内部で検討する」

1月30日、アンケート結果に基づき、住民説明会の開催や避難計画の再検討を求めて、綾部市に申入れをしました。アンケートは京都府北部30km圏内の7市町全体で857枚、綾部市はUPZの5%を超える199枚が集まりました。申入れには、綾部市民3名と京都市、大阪府、兵庫県、福井県から合わせて12名が参加。綾部市は防災・危機管理課長と担当長の2名が対応。市長あての要望書*を提出し、1時間15分ほど申入れを行いました。記者4名も同席しました。



市は、用意した回答以外は答えないという頑なな姿勢でした。何を言っても「ご意見として受け止めます」、一般的に「検討します」を繰り返し、市として具体的に何をするのかを答えませんでした。

市の対応を見て、綾部市民からは「綾部市で暮らすのが不安で嫌になる。住民の安全を守るために具体的に取り組むべき」と市に対して厳しい意見が述べられました。国や府に従うだけでなく、綾部市民の安全のために、市としての具体的な取り組みを求めます。

※要望書 https://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kyoto_pref_yobo20250130.pdf

アンケート調査結果 https://www.jca.apc.org/mihama/nuclear_waste/q_result20241205.pdf

*乾式貯蔵について知ってもらうことは大切だが、説明会を行う予定はない

アンケートで8割が必要と答えている住民説明会について、綾部市は、「日頃から関電に対し、住民の理解促進を求めている。乾式貯蔵についての関電パンフレットを市役所に置いている。説明会を行う予定はない」という回答でした。アンケートでは綾部市UPZ（原発30km圏内）の8割が乾式貯蔵について知らないし、説明するべきと答えています。この結果を尊重するよう求め、「知らせることは大切、関電にもご意見をお伝えしたい」と答えるのがやっとでした。

*使用済み燃料の貯蔵容量は原則増やさない・・・「例外」について関電に確認する

乾式貯蔵について、関電からは「フランスや六ヶ所再処理工場、中間貯蔵施設に速やかに搬出するためのもので、敷地内の貯蔵量は変わらない。また、キャスクの安全性は担保されている」と聞いているという回答でした。これについて市民は、六ヶ所再処理工場の運転の見込みはなく、中間貯蔵施設は建設に15年かかり、関電の計画には実効性がないと説明しました。さらに、関電は「エネルギーの安定供給に貢献できなくなる可能性がある場合」は「例外」として、貯蔵量を増やすと福井県に伝えていると説明しました。ところが綾部市は、「例外」の話認識していな

かったので、関電に確認するよう求めました。

また、守られるのは貯蔵容量か管理容量（貯蔵容量から1炉心引いた量）なのかも確認して欲しいと要望し、関電に確認するとのことでした。

***安定ヨウ素剤の事前配布は、必要かどうかも含め、市の内部で検討する**

能登半島地震を踏まえた避難計画の再検討について、市は「内閣府の原子力防災指針や府の防災計画を踏まえて、毎年見直しをしている。計画の実効性を高めるために、防災訓練が重要だ。今年度も除染の訓練やバスで亀岡への避難も行った。その報告も踏まえて今後も見直しを進める」と回答しました。

戸別訪問した綾部市UPZの地域は谷あい集落があり、幹線道路は一本、高齢者も多く過疎化が進んでいました。アンケートには、「避難訓練にも参加したけれど、事故が起きたら訓練通りにはいかない。避難は無理。一番問題なのは安定ヨウ素剤が配布されていないこと」という意見もあり、安定ヨウ素剤の事前配布を求めました。市は、自らは実施していないのに、「事前配布はうまくいっていないところが多い」と他の市町を非難するような態度でした。最終的には「ご意見は上に上げるし、必要かどうかも含めて内部で検討します」と答えました。

***乾式貯蔵は規制委員会で厳しい審査が行われていると承知している**

乾式貯蔵について、市は「規制委員会が審査しているので市として言うことはない」という回答でした。市民からは滋賀県が関電に提出した意見書を紹介しました。そして「高浜原発の敷地は狭く、背面の山を削り、急斜面の下に乾式貯蔵の設置場所を造成する計画。土砂崩れで格納設備が埋もれ、除熱できなくなる危険がある」等関電の乾式貯蔵の危険性を説明しました。そして、乾式貯蔵設置予定地の断層調査を関電と規制委に求めることを要望しました。



これらについて、市は「関電にご意見はお伝えする」と回答するだけでした。

申入れに参加された綾部市民の方が、「市民としても、乾式貯蔵や避難計画について学習・行動していかなければならないと思った」と感想を述べられていました。これからも協力して、取り組んでいきましょう。

議員さんとの懇談会

申入れ後、京都府議会議員や綾部市議会議員の皆さん等と約2時間の懇談会を持ちました。乾式貯蔵や避難計画、原発とエネルギー問題などざっくばらんな意見交換ができました。「戸別訪問をしてアンケートを取るなど、自分たちがするべきことをしてもらった」という感謝の言葉もありました。

最後に、四方府会議員が、住民説明会は必要、京都府の事前了解の権限についても求めていきたいと締めくくられました。

四方府会議員のブログで懇談会の様子が紹介されています。

<https://blog.goo.ne.jp/gentarou-ayabe/e/00372377ca9f4f22cfa795b92d8c9e6f>